

九州観光ビジネスプランコンテスト 2023

事業計画書

提出日 2023 年 7 月 30 日

学 校 名	佐賀大学		
学部・学科名			
チー ム 名 (個人参加の場合は任意)	ヤヨコッコ	エントリーNo.	57

1. 取り組みテーマについて(なぜこのテーマに取り組んだのか)

・現状および課題認識

吉野ヶ里歴史公園の年間の来訪者の約 9 割が県外からのファミリー層や考古学ファン、修学旅行生、また、福岡などの近隣の都市圏来訪に合わせて訪れた訪日外国人であり、比較的足を運びやすい県内からの来訪者が少ない現状にある。そのため、県外からの観光客だけでなく、町民や周辺市町村の住民等の来訪者確保につながるようなプログラムやイベントの構築が必要だと考える。

2. 課題解決に向けた新たなアイデアについて

吉野ヶ里歴史公園でもっと楽しく歴史を学ぶような機会を観光客に対して提供していくことが必要であると考えた。歴史を学びながら、NAGATOMO を使ったスタンプラリーを行ったり、インスタ映えするような写真スポットの紹介、弥生人のコスプレをしたりして、吉野ヶ里公園を散策することを新たなアイディアとして提案する。吉野ヶ里歴史公園でしか、体験することができないことをサービスとして提供することが地域ブランドの形成につながると考えた。

3. 九州や地域社会への影響について

・吉野ヶ里に人が来るまでに電車や車で来る人もいると考えられる。佐賀県は福岡県と長崎県の間であり、他県へのアクセスもいため、その人たちが九州各地で観光する可能性は高いため、このビジネスプランは誘客に繋がると考える。

4. 事業化に向けたビジネスモデルについての具体的な紹介

・商品・サービス・ノウハウなどを分かりやすくご説明ください。

・「事業収入(提供金額)」「費用(事業コスト)」「告知手法」等を可能な限り記述してください。

吉野ヶ里歴史公園で楽しく歴史を学ぶためのサービスとして、イベントを企画する他、弥生人の当時の服を再現したものを準備し、来場者がコスプレして楽しめる容提供する。また、インスタ映えする写真スポットの整備が必要になると思われる。

近隣住民だけでなく元々の客層である観光客や家族ずれ向けに衣装を用意するとなると大人から子供まで幅広いサイズが必要となるためそれなりの初期投資が必要になると考える。地元の地方情報局でイベントについて取り上げてもらう他、小・中学校などで広告を配布する。

5. 事業化後の目標、継続可能性や将来のイメージなどについて

吉野ヶ里歴史公園でイベントを行うことで、今まで訪れたことがなかった人にも吉野ヶ里のまちを周知することができる。これにより、交流人口の拡大をはかり、地域活性化へつながることを期待する。また、定期的なイベント開催を行うことで、新規参加者や定期的に吉野ヶ里を訪れる人たちを確保できるのではないかと考える。吉野ヶ里歴史公園を中心とした豊かなまちづくりを行うことができるのではないかと考える。